

2015年度 物流システム機器生産出荷統計
【概要版】

2016年8月

 公益社団法人
日本ロジスティクス システム協会
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

 一般社団法人
日本物流システム機器協会
The Japan Institute of Material Handling

物流システム機器生産出荷統計調査委員会・委員名簿

	所 属	役 職	氏 名
委員長	早稲田大学	理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 教授	吉本 一穂
副委員長	村田機械(株)	取締役 L&A事業部長	石山 敏彦
委 員	(株) I H I	産業・ロジスティクスセクター 物流・産業システム営業部 企画業務グループ 部長	森脇 一郎
"	オークラ輸送機(株)	営業企画室 副室長	芦内 睦彦
"	(株)岡村製作所	取締役 物流システム事業本部長	田尻 誠
"	三機工業(株)	プラント設備事業本部 企画開発部 担当部長	進藤 隆英
"	西部電機(株)	東京支店 マシン事業部 営業部 営業部長	村上 光平
"	第一工業(株)	搬送システム本店 営業部	三浦 洋
"	(株)ダイフク	経営企画本部 担当部長	田中 寧
"	トーヨーカネツソリューションズ(株)	執行役員	渡辺 一人
"	(株)日立製作所	インダストリアルプロダクツソリューションズ 営業統括本部 コンポ-ネント第二部 部長	米野 広樹
"	ホクショー(株)	取締役 東京支店長	藤井 一哉

(2016年8月現在、敬称略、社名五十音順)

事務局：公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所

.統計の目的

物流システム機器は生産や流通の効率化、高付加価値化に重要な役割を果たしており、我が国経済の発展のためにもその発展と成長が期待されている。そのためには、関係する企業が適切な経営判断を行えるよう、物流システム機器についての定量的で継続性のあるデータが不可欠である。

このようなことから、物流システム機器の生産出荷状況を定量的かつ継続的に把握することを目的として、標記の調査を実施するものである。なお、本調査は「物流システム機器推進部会」（旧：物流システム機器懇談会）が1985年度から実施している統計を実質的に継承しているが、2007年度調査より新たに調査委員会を設置し、一般社団法人日本物流システム機器協会・統計委員会の協力を得て、調査内容の検討・分析を行っている。

.調査対象と期間

国内主要物流システム機器メーカーを対象とし、2015年4月から2016年3月までの実績を調査集計したものである。

業種別調査は、調査対象25機種について、機種別に売上件数ベースで主要出荷先上位10業種を選択し、金額構成比を記入する方式としている。各社の各機種の売上金額に金額構成比を乗じて、各機種および小計別に、売上金額の上位10業種および金額のトータルを、グラフにまとめている。

97年度よりフォークリフト等、産業車両分野は一般社団法人日本産業車両協会の調査による統計を別枠で発表している。また、2006年度より、一般社団法人日本パレット協会が調査を実施しているパレット（木製パレット・金属製パレット・プラスチック製パレット・シートパレット・紙製パレットの合計）の生産数量および出荷額をあわせて別枠で掲載している。

2015年度フォークリフトは国内販売実績78,382台で、国内販売向け金額は2,085億7,700万円である。輸出版売実績は37,043台である（一般社団法人日本産業車両協会において、輸出向け販売金額は現在調査していない）。

2015年度パレットは生産数量が前年比7.0%減の5,900万枚で、出荷額は1,602億8,600万円となっている。

1. アンケート実施状況

- ・実施日程：2016年5月29日発送～6月26日〆切

2. 調査範囲

- ・製造業における組立ライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等通常の物流領域以外への出荷を含める（自動車の製造ラインも含む）。
- ・増設・改造等（工事を伴うサービス業務）についても、出荷データに含める。
- ・クリーンルーム向けを含む（クリーンルームの定義は次項参照）。
増設は、基数、件数、売上金額を含む。
改造は、売上金額のみ計上し基数、件数は含まない。

3. クリーンルームの定義

- 1) クラス10,000以下
- 2) 該当業種：半導体、FPD関係、太陽電池、HDD、メディアなど
- 3) 医療・食品業界向けは、クリーンルーム向け販売には含めず、エンドユーザーと売買したものに含める(一般物流とする)

4. 調査範囲について

2003年度(調査対象年)より、機器メーカー各社で取扱高が増えたクリーンルーム向けの調査を開始しているが、2004年度までの定義は「クラス10,000以下で半導体を除く」としていた。また、調査範囲を2005年度(調査対象年)より変更しており、2004年度までは「製造業における組み立てライン、ホテル、病院、図書館、オフィス等、通常の物流領域以外への出荷は含まない」としていた。また、2007年度まではパレットおよびロールボックスパレットを調査対象に含めていた。

調査対象機種

図表3-1 調査対象機種

1・2	パレット用自動倉庫 (ビル式・ユニット式)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的にパレット積みされユニット化された荷を、多段高層の棚及びスタッカークレーン等を使用して自動的に搬入・搬送・搬出できる保管庫をいう。 ・また、荷を直接ハンドリングするパレットレスのものも含む。(ビール樽、新聞用紙など)
3	バケット用自動倉庫 (ユニット式)	<ul style="list-style-type: none"> ・通箱、バケット、カートンを単位としたもの。
4	天井走行台車	<ul style="list-style-type: none"> ・天井空間に設置し、軌道ないし台車に駆動力を持つもの。 ・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
5	有軌道台車システム	<ul style="list-style-type: none"> ・軌道ないし台車に駆動力を持つもの。 ・基数は台車の数量とする。金額には軌道・制御装置を含む。
6	無軌道台車システム	<ul style="list-style-type: none"> ・各種センサーにより誘導される無人搬送台車。 ・基数は台車の数量とする。金額には制御装置を含む。
7	仕分機	<ul style="list-style-type: none"> ・自動にて荷の仕分けを行うもの。 ・構成範囲はインダクション部(誘導部、商品投入部)からソータ本体、仕分けシュートまで。(リサークルラインはケース搬送用コンベヤとする) ・基数は、台数とする。
8	パレット搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・パレットを被搬送物とするコンベヤ。 ・対象範囲：パレットを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。
9	ケース搬送用コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・バケット及びカートンケースを対象としたコンベヤ。ただし、石炭、鉱石、泥等のバルクを搬送するものは除く。 ・対象範囲：ケースを搬送するコンベヤすべてを含む、及びコンベヤ本体を制御する本体制御を含む。

図表3-1 調査対象機種（つづき）

10	ハンガー式コンベヤ	<ul style="list-style-type: none"> ・天井空間に設置し、ハンガー商品を吊下げて搬送するコンベヤ。 ・対象範囲：物品を吊り下げて搬送するコンベヤで、本体・装置・制御全体を含む。
11	デジタルピッキング表示器	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの指示によりピッキングする品物の位置と数量を表示する装置。 ・対象範囲：表示器を取り付けている流動棚、中軽量棚、コンベヤは含まない。ただし、回転棚に取り付けているピッキング表示器は回転棚に含む（パーティカル・水平共）。 ・制御関係は本体制御を含み、指示するコンピュータはコンピュータに集計する。
12	ピッキング台車	<ul style="list-style-type: none"> ・ピッキングする品物の位置と数量を表示する装置を取り付けているピッキング用の台車。 ・対象範囲：ピッキング台車本体及びコンソールと、付属する部品（充電器等）も含む。
13・14	回転棚(垂直式・水平式)	<ul style="list-style-type: none"> ・荷の軽重、制御レベルを問わない。垂直、水平両方式の回転する棚。 ・基数は、台数とする。
15・16	移動棚(電動式・手動式)	<ul style="list-style-type: none"> ・電動、手動にて移動する機構を備えた棚。 ・基数は、台数とする。
17	重量棚	<ul style="list-style-type: none"> ・パレット単位のユニットロードを格納する棚。（ネスティングパレットを含む）
18	中軽量棚	<ul style="list-style-type: none"> ・カートン単位、またはバケット単位などを格納する棚で、1棚当りの重量が約500kg以下のもの。
19	流動棚	<ul style="list-style-type: none"> ・カートン単位またはバケット単位のを、傾斜の付いた棚に置き、前面での取り出しを容易にさせたもの。
20	パレタイザ/デパレタイザ	<ul style="list-style-type: none"> ・バケット、カートンケース、袋物等の物品を自動にてパレット上に整列集積（或いは分離）する装置。 ・機械式、ロボット式のいずれの方式も含む。
21	パレット搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置。（パレットを被搬送物とする） ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
22	ケース・ピース搬送用垂直搬送機	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の搬入出装置を備え、連続で搬送物を垂直搬送する装置。（バケット及びカートンケースを対象とする） ・ただし、エレベータ、小荷物専用昇降機は含まない。
23・24	コンピュータ (ハード・ソフト)	<ul style="list-style-type: none"> ・物流機器の情報処理と在庫監視を同期化して行うコンピュータシステムのハード・ソフト。
25	WMS	<ul style="list-style-type: none"> ・物流センター・倉庫等で入荷から出荷までの一連の作業を支援するコンピュータシステム(ハード・ソフト)。 ・対象範囲：物流設備の有無、物流設備との接続の有無を問わない。
26	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・以上1～25の分類に該当しないもの。

調査事項

前項であげた各々の機種につき、A 売上件数、B 基数、C 総売上金額、D 海外向金額を調査しており、数値の重複を避けるため、以下の区分で調査を行なっている。

M：同業他社向けに売買したもの

U1：エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2：ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C：クリーンルーム向けに売買したもの

C 総売上金額、D 海外向金額の数値はいずれも売上ベースであり、売上件数に対応する据付、調整工事を含む全金額とする。ビル式の場合には土木、建築工事の金額を含むものとする（建築の範囲：ラックに付属する屋根・壁）。D 海外向金額はC 総売上金額の内数である。

なお、売上件数については、例えば同一顧客企業に2回以上納品した場合、部品だけを納品した場合等、回答企業によりカウントの方法が異なる回答が含まれている可能性があり、注意が必要である。

業種別調査は、売上金額を出荷先業種別に調査したものである。業種別調査は、下記の業種分類により調査を行っている。ただし、業種別調査は出荷先上位10業種のための調査であることに加え、業種別の回答が得られない企業があることから、業種別売上高の総計が総売上金額に一致しない場合がある。

図表4-1 業種調査の業種分類

業種分類	大分類	業種分類	大分類
1 建設	8 その他	191 小売業	5 卸・小売
2 食料品製造	3 食品・医薬等	192 通信販売	
3 繊維・衣服	4 その他製造	20 自動車販売	8 その他
4 パルプ・紙加工		21 自動車整備サービス	
5 出版・印刷		22 サービス業	
6 化学		23 倉庫業	6 倉庫・運輸
7 医薬・化粧品・塗料	3 食品・医薬等	24 陸運	
8 石油・ゴム製品	4 その他製造	25 海運	
9 ガラス・窯業・土石製品		26 空運	
10 鉄鋼		27 鉄道	
11 非鉄・金属製品		28 通信	8 その他
12 一般機械器具		29 電気・ガス・水道	
13 電気機械器具	1 電機・精密機器	30 官庁・学校	7 官庁・図書館等
14 自動車/輸送用機械器具	2 輸送機器・部品	31 団体・組合(JA 等)	
15 精密機械器具	1 電機・精密機器	32 ホテル	8 その他
16 自動車部品製造	2 輸送機器・部品	33 病院	7 官庁・図書館等
17 その他製造	4 その他製造	34 図書館	
18 卸売業(商社)	5 卸・小売	35 その他	8 その他

．全体の推移

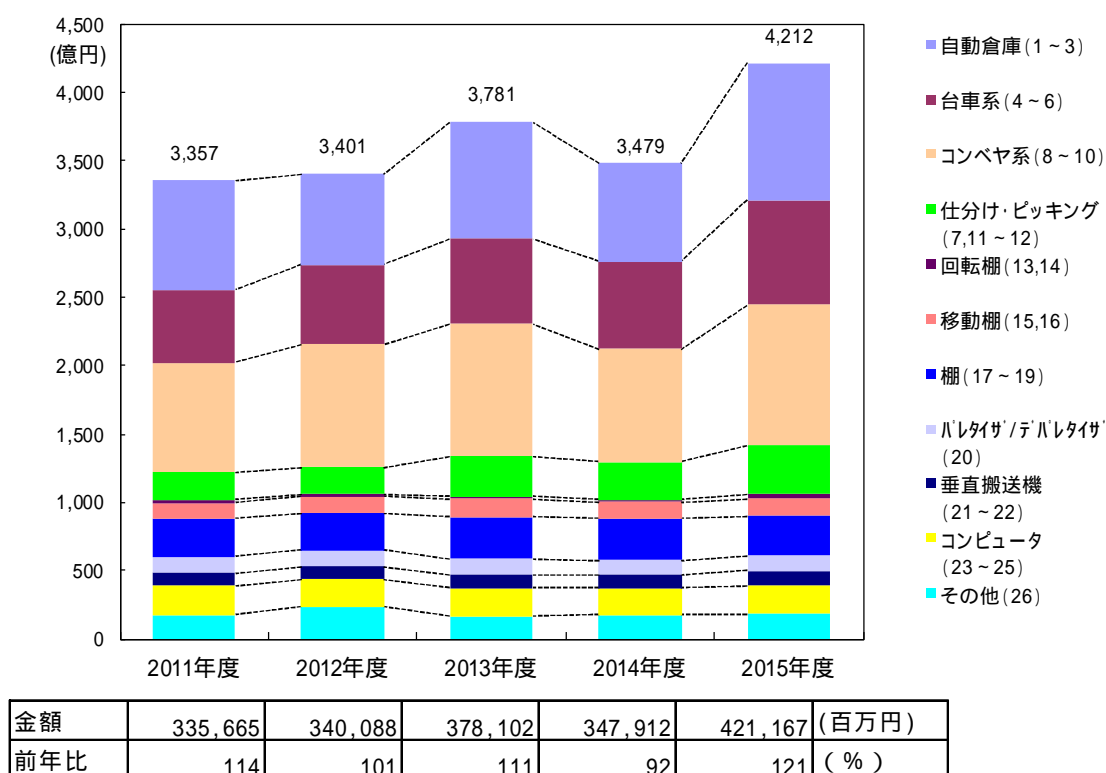
集計の結果、2015年度の物流システム機器の総売上金額は、2014年度の347,912百万円から21.0%増の421,167百万円となった(図表5-1)。また、売上件数も2014年度の112,291件から123,785件へと増加した。

2015年度はデフレ脱却により景気回復が進み、一部の企業の業績が好転することで設備投資への意欲が増大したほか、前年度の受注残が加わったこともあり、売上高が増加したものと推察される。

売上金額を領域別に見ると、海外向けは28%増加し、クリーンルーム向けも58%の増加となった。業種別に見ると、「電機・精密機器」に対する売上の比率が、依然として高水準となっている(図表5-3)。

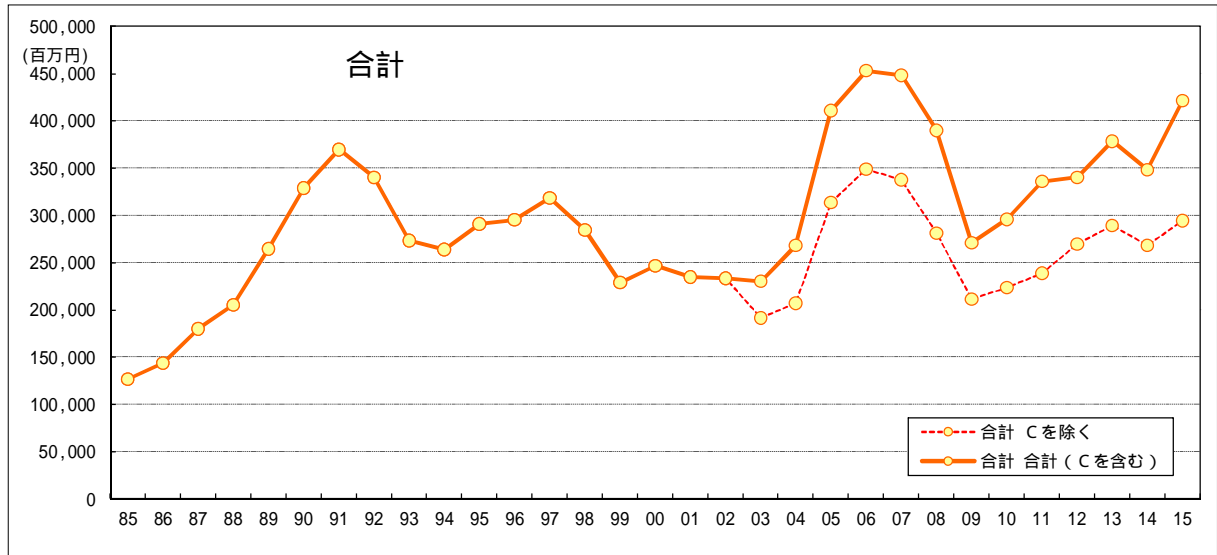
なお、2013年度調査から業種分類を変更しており、従来「小売業」の内数であった「通信販売」を新たに業種分類として独立させ、調査している。2015年度の「通信販売」への売上金額は7,713百万円となり、これは総売上金額の約2%である。

図表5-1 総売上金額の推移



注：凡例の数字は、図表3-1の番号に対応

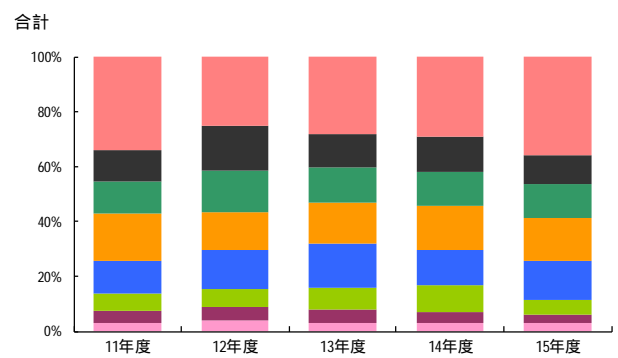
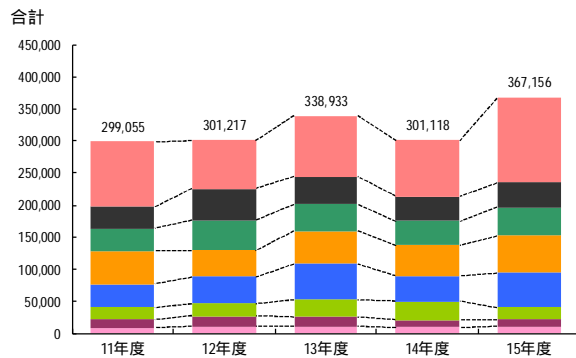
図表5-2 物流システム機器の総売上高（長期時系列）



注：2003年度より、クリーンルーム向け（図中のC）を調査対象に加えており、それ以前との比較のため、Cを除いたグラフも掲載した。図表6-4以降も同様である。

なお、調査範囲はそれ以外にも変更を行っており、 . 4 項を参照のこと。

図表5-3 業種大分類別売上高の推移
（左：金額ベース / 右：構成比）



業種別比率 (%)	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
電機・精密機器	33.9	25.1	27.9	29.3	36.1
輸送機器・部品	11.4	16.4	12.7	12.5	10.3
食品・医薬等	11.8	15.4	12.4	12.6	12.2
その他製造	17.2	13.8	15.0	16.0	15.6
卸・小売	11.8	13.9	16.4	13.0	14.5
倉庫・運輸	6.2	6.4	7.9	9.7	5.3
官庁・図書館等	4.6	5.3	4.5	3.8	3.0
その他	3.0	3.7	3.2	3.1	2.9

注1：業種分類については図表4-1を参照のこと。

2：売上高の業種別構成比の記入がない回答があるため、総売上金額の合計と一致しない。

．各機種の動向

自動倉庫（１～３）

自動倉庫全体の売上金額を見ると、前年度の72,101百万円から2015年度は100,084百万円へと増加（38.8%）した。機種別に見ると、パレット用自動倉庫（ユニット式）の売上金額が、40,918百万円から53,678百万円へと増加（31.1%）となった。また、クリーンルーム向けについては、24,621百万円から47,020百万円へと約90%増加する結果となった。基数（パレット数）は1,122千パレットから1,097千パレットへと減少（-3.2%）している。

台車系（４～６）

台車系は、2009年度に大幅に減少したが、2010年度以降は毎年、売上金額が増加している。2015年度についても、63,938百万円から76,874百万円へと20.2%の増加であった。基数は4,902台から5,578台に増加（13.7%）した。

機種別にみると、天井走行台車が45,488百万円から59,991百万円（31.8%）に、無軌道台車システムが6,460百万円から8,649百万円（33.8%）にそれぞれ増加したが、有軌道台車システムが11,990百万円から8,234百万円に減少（-31.3%）する結果となった。

コンベヤ系（８～１０）

コンベヤ系は、2010年度以降、４カ年連続で増加を続けた後、昨年度減少したが、2015年度の売上高は82,104百万円から102,692百万円に増加（25.0%）した。機種別には、パレット搬送用コンベヤが37,190百万円から43,458百万円（16.8%）、ケース搬送用コンベヤが37,274百万円から41,680百万円（11.8%）、ハンガー式コンベヤが7,640百万円から17,554百万円（129.7%）とすべての機種で増加する結果となった。

コンベヤ系は従来からクリーンルーム向けの売上金額の割合が小さく、大勢には影響を与えないが、クリーンルーム向けの売上金額についても、6,300百万円から12,754百万円へと大きく増加（102.4%）した。

仕分け・ピッキング系（７,１１～１２）

仕分け・ピッキング系は、物流システム機器の中では好不況の影響が比較的少なく、他の機種と比べると例年、売上金額の変動は小さいが、2015年度は前年度の27,776百万円から35,538百万円へと増加（27.9%）している。

全体の過半は仕分機が占めているなか、仕分機の売上金額は、18,785百万円から26,455百万円に増加（40.8%）、基数については、2,721台から3,014台へと増加（10.7%）している。なお、仕分機の主たるユーザは卸・小売、倉庫・運輸等の内需関連産業であり、設備投資の波動が大きくないため、長期的にみても安定した売上を維持している。一方で、デジタルピッキング表示器は、売上金額が8,446百万円から8,292百万円へと微減（-1.8%）している。

回転棚・移動棚（１３～１６）

回転棚・移動棚の売上高は、好不況の影響で多少増減するものの、近年は安定的に推移しているが、2015年度は前年度の13,826百万円から16,521百万円へと増加（19.4%）している。

機種別にみると、売上金額の大半（79.8%）を移動棚が占めている。移動棚の売上は電動式が7,612百万円から8,450百万円（11.0%）へと増加、手動式も4,394百万円から4,736百万円（7.7%）へ増加となった。回転棚（垂直式）は644百万円から589百万円へとわずかに減少（-8.5%）しているが、回転棚（水平式）については、1,176百万円から2,746百万円へと大きく増加（133.5%）

している。

なお、本調査の調査対象はオフィスなど通常の物流以外の領域を含んでいる。業種別調査の結果を見ると、たとえば移動棚（手動式）では「官庁・図書館等」向けが2/3を占めている。

棚（17～19）

棚は、重量棚、中軽量棚、流動棚の3機種からなる。売上金額は30,880百万円から28,308百万円へと減少（8.3%）した。重量棚が8,984百万円から8,288百万円に（7.7%）、中軽量棚が21,030百万円から19,541百万円に（7.1%）、流動棚が866百万円から479百万円に（44.7%）、すべての機種で減少している。

なお、棚の出荷先は、卸・小売、倉庫・運輸、官庁・図書館等が多く、年によって変動があるが、この3業種で概ね過半を占めている。

パレタイザ/デパレタイザ（20）

パレタイザ/デパレタイザは、2009年度の一時的減少を除くと、景気の影響を大きく受けず長期的に安定的な水準を維持しており、2015年度は、前年度の売上高10,341百万円から11,260百万円へと増加（8.8%）している。基数で見ると、1,129台から1,149台とほぼ横ばい（1.7%）となっている。

業種別調査の結果によると、出荷先業種は「その他製造」と「食品・医薬等」がそれぞれ半分程度を占めており、両業種で大半を占める。

垂直搬送機（21～22）

垂直搬送機は、売上金額が9,454百万円から11,233百万円へと増加（18.8%）している。

機種別にみると、パレット搬送用垂直搬送機は8,250百万円から8,807百万円に（6.8%）、ケース・ピース搬送用垂直搬送機は1,204百万円から2,426百万円へと（101.4%）それぞれ増加している。

業種別に見ると、ケース・ピース搬送用垂直搬送機の出荷先は、「電機・精密機器」、「食品・医薬等」向けで過半を占めている。パレット搬送用垂直搬送機は倉庫・運輸が4割程度（38.4%）を占める。

コンピュータ（23～25）

コンピュータは、物流システム機器の情報処理や在庫管理を行う、一般的には制御系の機能を含むコンピュータソフト・ハードと、WMS（倉庫管理システム）からなる。

このうちWMSについては、本統計が主として物流システム機器のメーカー（エンジニアリング会社を含む）を調査対象としており、カバレッジが充分でない点に留意が必要である。特に、大手情報システムベンダーでは、WMSの機能を含む物流情報システムを個別に開発しているケースが多いと思われるが、上記の理由から本調査ではカバーできていない。

コンピュータ全体の売上金額をみると、2015年度は、前年度の19,930百万円から20,320百万円へとわずかながら増加（1.9%）した。機種別に見ると、コンピュータ（ハード）が5,336百万円から6,898百万円へと増加（29.3%）している一方、コンピュータ（ソフト）は10,920百万円から10,233百万円へと減少（6.3%）した。なお、コンピュータは物流システム機器の制御等に利用されるものが多く、他の機種の出荷傾向に影響を受ける。

. 海外の市場動向

海外向け売上金額は、2014年度の106,925百万円から2015年度は136,882百万円へと増加(28.0%)となった。海外向けは従来クリーンルームの割合が高く、その影響を強く受ける傾向がある。2015年度については、クリーンルーム向けの海外売上高は70,183百万円から91,851百万円へ増加(30.8%)となっており、ここ数年の推移を見ても、海外向け全般が継続して高い水準を保っていることが分かる。

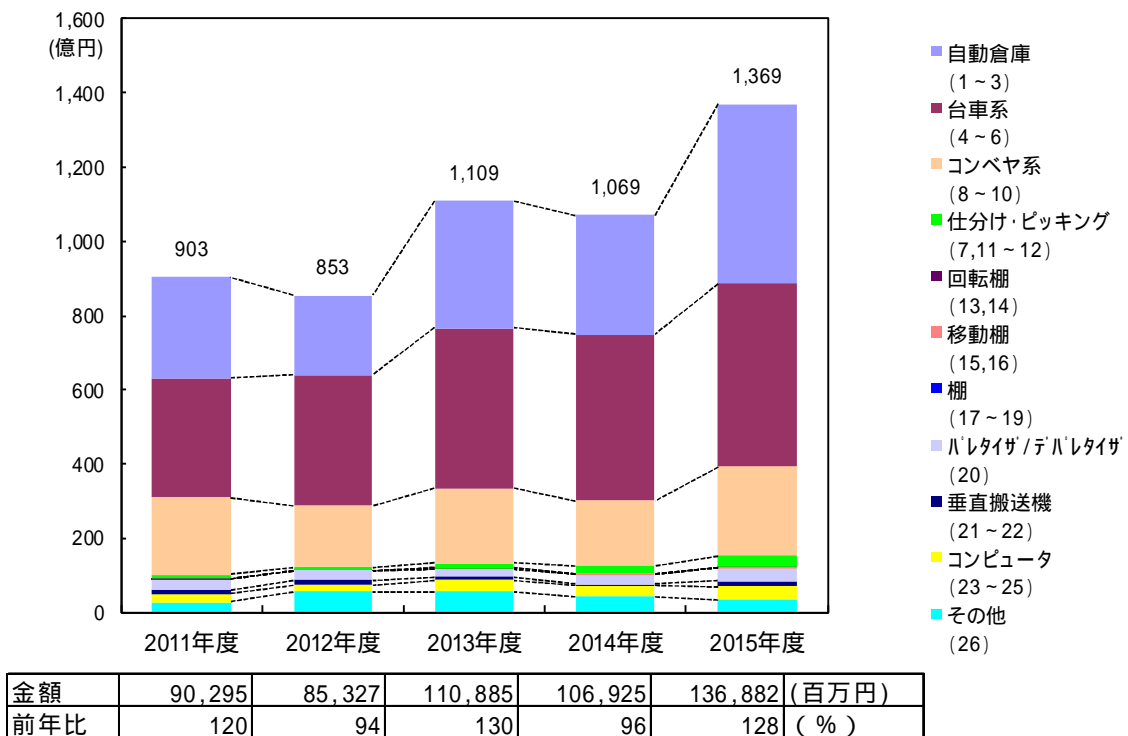
海外向け売上金額では、台車系が全体の35.9%、自動倉庫が35.2%、コンベヤ系が17.5%を占め、この3機種で過半数(88.6%)を占める。

この3機種のうち、自動倉庫は32,113百万円から48,316百万円に(50.4%)、台車系は44,686百万円から49,246百万円に(10.2%)コンベヤ系は17,489百万円から24,018百万円に(37.3%)、それぞれ増加する結果となった。

なお、自動倉庫、台車の海外向け金額は、いずれも70%程度ないしそれ以上がクリーンルーム向けで占められている。

なお、クリーンルーム向けの売上金額は、海外向け総売上に対して67.1%を占めている。

図表7-4 海外向け売上金額の推移



．最後に

以上で見てきたとおり、2015年度は前年比21.0%の大幅な増加となった。デフレ脱却へ向けた政策や企業努力により、日本経済は一部回復への道のりが見えているものの、経済環境の変化により不透明な局面にあるなかで、今後の国内の設備投資の動きを注視したい。

なお、本調査では、四半期毎の受注額も調査を行っている。受注調査では、売上高ベースで出荷調査の85%程度に相当する企業の回答を得ている。受注は出荷の先行指標であるが、2015年度の出荷額は、2014年度の受注金額（408,319百万円）の103%程度であり、受注金額と次年度の出荷額は、ある程度近似していると考えられる。

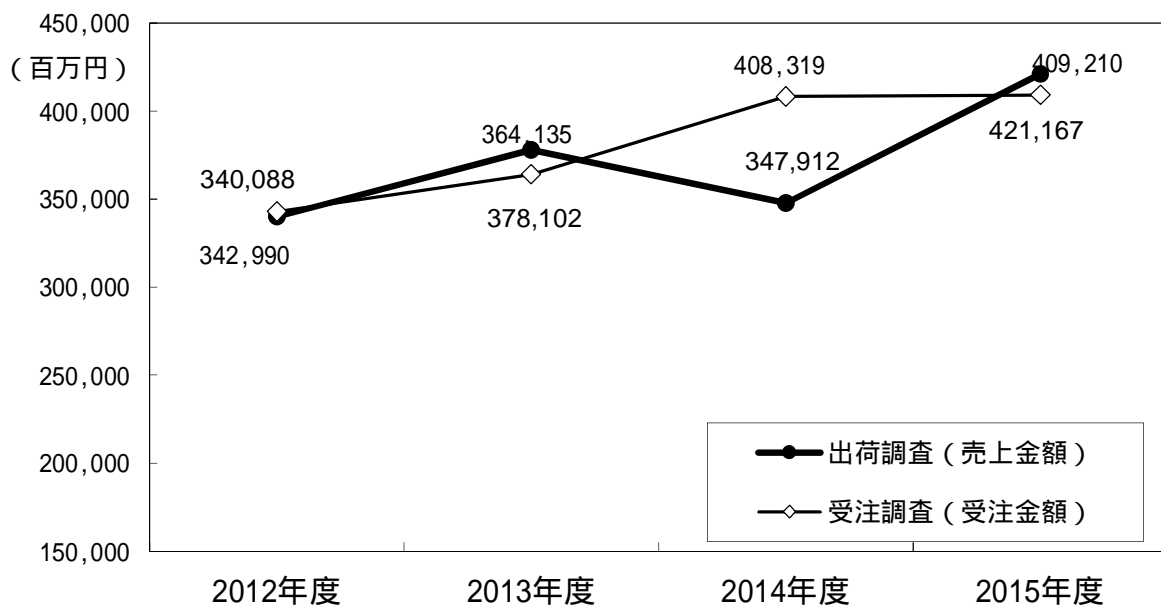
2015年度の受注金額は4,092億円と2014年度より微増しており、（図表8-16）、2016年度の売上金額も比較的堅調に推移すると予測される。

我が国製造業は、欧州や中国における政治・経済の不安定要素やアジア各国との競争激化など、依然、予断を許さない状況に置かれている。そのなかで、少子高齢化が進み、人材の確保がますます困難になる一方、各企業においてはさらなる物流の効率化が急務となっている。

こうした状況のもと、物流現場の省力化・自動化を実現する物流システム機器へのニーズはさらに増すものと考えられることから、物流システム機器業界として、産業界の発展に貢献するためにも、さらなる技術革新と標準化を推進し、安全で環境負荷の少ない物流システム機器を提供することが重要である。

図表8-16 物流システム機器の受注額との比較（参考）

グラフは、各年度における「売上金額」と「受注金額」を表す。大型の機器等では、受注と売上（出荷）には1年ないしそれ以上のタイムラグが生じる。そのため、受注は売上（出荷）の先行指標となる。



出典：物流システム機器の受注統計整備に関する調査

注：本調査の回答企業は、売上高ベースで「出荷統計調査」の85%程度に限られる。

2015年度 物流システム機器 生産出荷統計

M: 同業他社と売買したもの

U1: エンドユーザー、商社などと売買したもの

U2: ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの

C: クリーンルーム向けに売買したもの

計: U1+U2+C

設備機器名	A 売上件数	B 基数		C 売上金額 (百万円)	D 海外向金額 (百万円)	
		(台)	(パレット)			
1 自動倉庫 (1~3) 〔 1.パレット用自動倉庫(ビル式) 2.パレット用自動倉庫(ユニット式) 3.パケット用自動倉庫(ユニット式) 〕	M	36	21	18,716	605	0
	U 1	1,523	1,231	876,821	48,887	11,133
	U 2	139	142	152,343	4,177	1,092
	C	167	472	68,655	47,020	36,091
	計	1,829	1,845	1,097,819	100,084	48,316
2 台車系 (4~6) 〔 4.天井走行台車 5.有軌道台車システム 6.無軌道台車システム 〕	M	234	125		1,782	17
	U 1	2,944	1,454		17,973	5,894
	U 2	33	63		892	87
	C	265	4,061		58,009	43,265
	計	3,242	5,578		76,874	49,246
3 コンベヤ系 (8~10) 〔 8.パレット搬送用コンベヤ 9.ケース搬送用コンベヤ 10.ハンガー式コンベヤ 〕	M	1,228			4,856	217
	U 1	17,141			86,238	17,710
	U 2	321			3,700	79
	C	471			12,754	6,229
	計	17,933			102,692	24,018
4 仕分機 (7) 〔 7.仕分機 〕	M	634	193		2,813	68
	U 1	1,908	2,939		25,803	1,622
	U 2	49	58		402	121
	C	8	17		250	18
	計	1,965	3,014		26,455	1,761
5 ピッキング系 (11~12) 〔 11.デジタルピッキング表示器 12.ピッキング台車 〕	M	173	0		560	0
	U 1	1,669	57		8,977	1,344
	U 2	13	5		106	0
	C	0	0		0	0
	計	1,682	62		9,083	1,344
6 回転棚 (13~14) 〔 13.回転棚(垂直式) 14.回転棚(水平式) 〕	M	70	52		1,204	0
	U 1	178	170		3,335	67
	U 2	0	0		0	0
	C	0	0		0	0
	計	178	170		3,335	67
7 移動棚 (15~16) 〔 15.移動棚(電動式) 16.移動棚(手動式) 〕	M	71	113		396	0
	U 1	2,561	7,199		12,962	97
	U 2	31	34		224	0
	C	0	0		0	0
	計	2,592	7,233		13,186	97
8 棚 (17~19) 〔 17.重量棚 18.中軽量棚 19.流動棚 〕	M	1,100			1,310	0
	U 1	77,479			28,102	0
	U 2	101			206	0
	C	2			0	0
	計	77,582			28,308	0
9 パレタイザ/デパレタイザ(20) 〔 20.パレタイザ/デパレタイザ 〕	M	0	20		195	0
	U 1	253	1,086		10,433	3,271
	U 2	28	47		451	0
	C	16	16		376	292
	計	297	1,149		11,260	3,563
10 垂直搬送機 (21~22) 〔 21.パレット搬送用垂直搬送機 22.ケース・ピース搬送用垂直搬送機 〕	M	111	212		1,233	71
	U 1	295	521		7,205	752
	U 2	134	323		2,742	74
	C	22	186		1,286	784
	計	451	1,030		11,233	1,610
11 コンピュータ (23~25) 〔 23.コンピュータ(ハード) 24.コンピュータ(ソフト) 25.WM S 〕	M	613			861	1
	U 1	4,992			16,080	809
	U 2	82			513	2
	C	90			3,727	2,567
	計	5,164			20,320	3,378
12 その他 (26) 〔 26.その他 〕	M	64			78	1
	U 1	10,655			14,470	874
	U 2	106			325	3
	C	109			3,542	2,605
	計	10,870			18,337	3,482
13 合計 (1~26)	M	4,334	736		15,893	375
	U 1	121,598	14,657		280,465	43,573
	U 2	1,037	672		13,738	1,458
	C	1,150	4,752		126,964	91,851
	計	123,785	20,081		421,167	136,882

物流システム機器生産出荷統計表 総売上金額の推移

設 備 機 器 名 ()は集計対象機器(小分類)の番号	売上金額(単位:百万円)					
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
自動倉庫(1~3)	M	553	326	721	572	605
	C	36,050	19,320	32,483	24,621	47,020
	U1+U2+C	80,623	66,144	85,305	72,101	100,084
台車系(4~6)	M	709	667	337	654	1,782
	C	35,927	34,892	37,558	43,011	58,009
	U1+U2+C	53,091	58,446	62,049	63,938	76,874
コンベヤ系(8~10)	M	12,827	3,654	4,726	5,150	4,856
	C	16,412	10,137	13,149	6,300	12,754
	U1+U2+C	80,041	89,896	97,068	82,104	102,692
仕分機(7)	M	665	751	1,390	2,625	2,813
	C	0	0	230	230	250
	U1+U2+C	12,196	12,856	21,721	18,785	26,455
ピッキング系(11,12)	M	366	494	624	727	560
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	7,765	7,126	7,590	8,991	9,083
回転棚(13,14)	M	62	3	12	629	1,204
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	2,153	1,467	1,774	1,820	3,335
移動棚(15,16)	M	501	320	525	493	396
	C	0	0	0	0	0
	U1+U2+C	11,673	12,299	13,208	12,006	13,186
棚(17~19)	M	3,279	859	1,356	2,578	1,310
	C	69	0	0	0	0
	U1+U2+C	27,916	27,175	30,733	30,880	28,308
パレタイザ/デパレタイザ(20)	M	471	674	175	204	195
	C	996	546	261	195	376
	U1+U2+C	12,281	11,623	11,632	10,341	11,260
垂直搬送機(21~22)	M	1,192	1,210	1,048	1,402	1,233
	C	1,710	1,309	572	363	1,286
	U1+U2+C	8,967	9,404	9,813	9,454	11,233
コンピュータ(23~25)	M	123	77	143	845	861
	C	2,827	1,564	2,331	2,526	3,727
	U1+U2+C	21,512	20,286	20,755	19,930	20,320
その他(26)	M	782	569	617	563	78
	C	3,213	3,092	2,580	2,739	3,542
	U1+U2+C	17,449	23,367	16,454	17,562	18,337
パレットを除く合計(1~26)	M	21,530	9,602	11,674	16,442	15,893
	C	97,204	70,860	89,164	79,985	126,964
	U1+U2+C	335,665	340,088	378,102	347,912	421,167
合計(1~26、参考1~2)	M	21,530	9,602	11,674	16,442	15,893
	C	97,204	70,860	89,164	79,985	126,964
	U1+U2+C	335,665	340,088	378,102	347,912	421,167
フォークリフト		163,927	171,340	185,834	198,627	208,577
パレット		186,533	149,458	164,676	168,111	160,286

M: 同業他社向けに売買したもの
 U1: エンドユーザー、商社などと売買したもの
 U2: ゼネコン・エンジニアリング・コンピュータ会社と売買したもの
 C: クリーンルーム向けに売買したもの

本概要版には、機器大分類別の売上金額、海外への売上金額といった概要データを記載しています。機器小分類別の売上金額、機器別・業種別の売上金額等の詳細データは、回答企業に配布している詳細版報告書（約70ページ）に収録しています。

2015年度 物流システム機器生産出荷統計【概要版】

2016年8月発行

公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエベイディアム

電話 03-3436-3191 F A X 03-3436-3190

ホームページ <http://www.logistics.or.jp/>

禁無断転載